

欧州保存修復専門家連合

European Confederation of Conservator-Restorers' Organization

「専門的ガイドライン (3)教育

Professional Guidelines (3)Education」(2004年)

※ この翻訳は以下の文献に修正を加え Conservator-Restorer の訳語は「コンサーヴァタール保存修復専門家」に統一し、転載した。
大竹秀実・二神葉子「欧米における文化財の修復士—イタリアにおける『文化財修復士』資格を中心に—」『保存科学』43、p.133-145、2004年。<https://www.tobunken.go.jp/ccr/pdf/43/04316.pdf>

※ 原文は以下のサイトを参照。

https://www.ecco-eu.org/wp-content/uploads/2021/01/ECCO_professional_guidelines_III.pdf

I. 保存修復の教育における基本的目的

教育は、この職業の最も高い倫理水準を基盤とし、文化遺産の独自性とその美的、芸術的、資料的、環境的、歴史的、科学的、社会的または精神的価値を尊重することを目指す。教育を完了した後、卒業生は文化遺産の保存修復の分野において、より専門的な技術的、科学的、芸術的側面も含め、責任を持って任務にあたることができなければならない。彼らは、文化遺産の保全に関わる他のあらゆる職業の人々と協力できなければならない。卒業生はまた、保存修復、歴史的技術や技法の分野において、自主的に研究が行えなければならない。教育においては、E. C. C. O. 職業に関するガイドライン(1)が示す、その他すべての重要な能力の育成も目指される。

II. 教育のレベル

資格のあるコンサーヴァタール保存修復専門家としてこの専門職に就くためには、最低でも修士のレベル(あるいはそれに準ずると認められるレベル)を要する。これは、大学(あるいはそれに準ずるレベル)で4年以上、保存修復を全日制で勉強することで達成され、適切に計画された実践的なインターンも行わなければならない。これは、博士レベルの研究の可能性に結びつくものでなければならない。

理論的教育も実践的研修も非常に重要であり、良い均衡を保って計画されなければならない。最終試験に合格すると、候補者に学位あるいはディプロマが与えられる。そこには、学習した専門分野が記されるべきである。

国の状況に応じて、専門分野において倫理的かつ有能に任務にあたるコンサーヴァタール保存修復専門家

の能力を確認するために、実務状況を評価することも妥当であろう。

III. 実践的研修

実践的研修では、教育目的に特に適すると思われるオリジナルの作品への処置が含まれなければならない。選ばれた作品は、技法調査、診断とそれに関する処置を含め、適切に記録されるケース・スタディのための材料を提供しなければならない。教育の初段階から、このようなケース・スタディは、学生に最も実践的な方法でそれぞれの作品を独特な事例であると理解させる。さらにケース・スタディは、保存修復の理論的、方法的、倫理的なすべての側面を実践的研修に統合するための最善の可能性を与えてくれる。また文化遺産の物理的、歴史的、芸術的側面の理解をより深めるために、関連する材料の歴史的技法、技術と製作の工程を研究し実践することが奨められる。

IV. 理論的教育

理論的教育には、科学と人文学の均衡が不可欠である。理論の科目は保存修復分野の中の専攻によって決定されるが、以下を含まなければならない

- 保存修復の倫理原則
- 科学(例: 化学、物理学、生物学、鉱物学、色彩理論)
- 人文学(例: 歴史、古文書学、美術史、考古学、民族学、哲学)
- 材料と技法の歴史、技術、製作工程
- 分析と劣化現象の研究
- 文化財の展示と輸送
- 保存修復、予防的保存、修復処置の理論、方法と技術
- 物の複製を作る工程
- 記録方法
- 科学的調査方法
- 保存修復の歴史
- 法律関係(例: 職業的地位、文化遺産に関する法律、保険、経営と税に関する法律)
- 運営(コレクション、人員と資金)
- 健康と安全(環境問題を含む)
- コミュニケーション技能(情報学を含む)